

## 取組の説明資料

# 子どものSOSを「見逃さない」ために

～ 「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した信頼関係の構築 ～

長野県教育委員会事務局 心の支援課

### はじめに

子どもから大人へと急激な成長を遂げる児童期から青年期は、子どもの誰もが、様々な不安や悩みを経験する時期です。そのような子どもの不安や悩みは、「いじめ」「不登校」「非行」などとして表出する場合があります。また、教師が子どもの様子の変化から、その子どもの不安や悩みに気づく場合もあれば、その子どもの友人や保護者から相談されて気づく場合もあります。

「いじめ」や「不登校」は、どの子どもにも起こり得ます。子どもへのインターネット接続端末の普及に伴い、子どもがインターネット上のトラブルに巻き込まれる場合や、「ネットいじめ」のように、教師や保護者が問題を初期の段階で発見することが難しいケースも増えています。

一方、子どもの周囲に「信頼できる相談相手」がいれば、本人やその友人から、問題の発生を報告してもらえる可能性が高いというデータがあります。子どもの抱える悩み悩みが複雑かつ解決困難になる前に適切な支援をするため、まずは我々教師が子どもの「信頼できる相談相手」になりましょう。

### 1 傍観者を「情報提供者」や「支援者」にするための取組

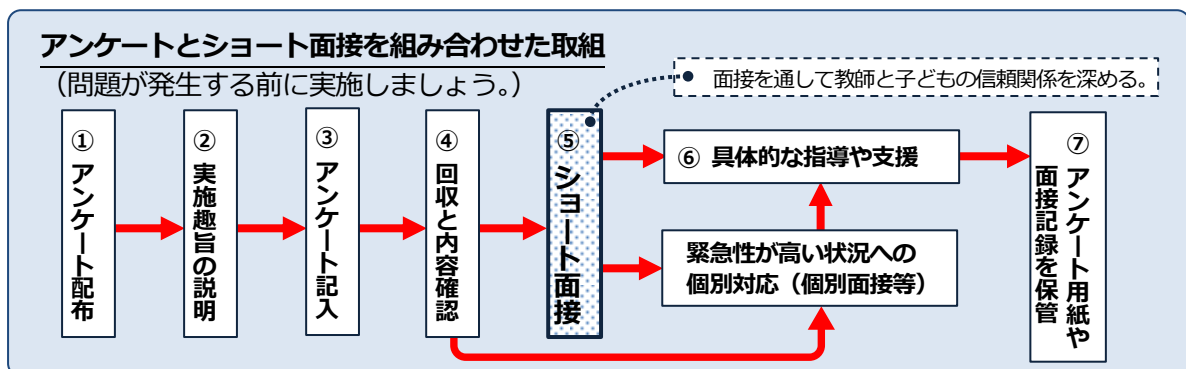
子どもの9割がいじめの被害側も加害側も経験しているというデータがあります（国立教育政策研究所）。いじめは、「被害者」「加害者」という2者関係だけでなく、「観衆」としてはやし立てる存在や、その周囲で見て見ないふりをする「傍観者」の存在によって成り立っています。

#### 取組のねらい

○ 「アンケート」と「5分間ショート面接」を組み合わせることで実施することにより、「困ったときには相談したい」と子どもが感じるような「教師と子どもの信頼関係」を組織的に築く。

「傍観者」を「情報提供者」や「支援者」にするために、特定の学級のみの実施ではなく学校組織として取り組み、「いじめを許さない」「困ったときには相談する」という雰囲気醸成をしましょう。

### 2 「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した信頼関係の構築



#### 【取組のポイント】

- 子どもたち全員に、困ったときや「おやっ？」と思ったときの情報提供を呼び掛ける。
- 情報を提供してくれた子どもの秘密と安全を守る。
- 緊急性の高い状況については素早く対応する。
- 子どもの相談窓口を複数確保するための工夫をする。
- 子どもや教師に負担を掛けない工夫をする。
- 実施したアンケート用紙を、指導の経過や実績の記録として保管する。

